

STYLING

MONO



「クリスタライズ」と呼ばれる
スワロフスキーのクリスタルガラス。
ベルサイユ宮殿を始めとする
シャンデリアで一躍その名を
知られる存在になったが、実は
クリスタル加工技術を活かした
双眼鏡製作の歴史は意外に古い。

世界最高の双眼鏡をご存知か？
しかもそれが巷間知られる光学メーカーの品ではなく
クリスタルガラスやジュエリーで知られる
あのスワロフスキー製だということを。
そう、スワロフスキー・オプティック社製の双眼鏡は
創始者タニエル・スワロフスキーの息子、
ウィルヘルム・スワロフスキーが1935年から
その製造を始めた、名品中の名品である。
オーストリアという、ヨーロッパの中でも洗練された
気風を持つ土地が大事に育て続けたブランドであり、
精緻さと美しさを備え持つ、世界の傑作品だ。

VOL.08 Swarovski Optik

SINCE 1949~

●特集[スワロフスキー・オプティック]

Photo/Tomoaki Tsuruda(WPP) Swarovski&Swarovski Optik
Text/Teruhiko Doi(WPP)



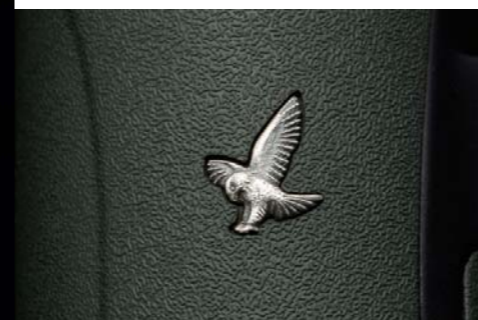
STYLING

MONO

ラップ・アラウンド・グリップが
双眼鏡の理想的な形であることは
他のメーカーも判っているはずだが、
ピント調節のためのメカをすべて
ブリッジの部分に入れなければならず
技術面でもコスト面でも、難易度の高い
設計であるために敬遠されている。



最上級の腕を持つ職人たちによる、確信犯的超難易度のモノ作り



結論から述べよう。「スワロフスキー・オプティック」の
双眼鏡がなぜ世界最高品質と言われるのか。
それはまず、品質はあっても「コストの概念は無い」と言い切る
同社の企業理念が、すべてに優先されたモノ作りだからだ。
たとえば対物レンズや接眼レンズの焦点距離は、
ある程度の誤差が生じるものだが
それ以上の精度を出そうとすると、とてつもなく高い
製品価格になってしまうのである。
その光軸のズレのまま双眼鏡を5、10分見続けると
眼球の疲労や頭痛を感じてしまうこともあるほど。
ところがスワロフスキーは、その精度を限界まで追いこんだ、
長時間レンズを覗いても疲れない双眼鏡なのである。
また、双眼鏡のデザインで初めて、片手でのホールド感を
高めた「ラップ・アラウンド・グリップ」を完成させた。
寒冷地でもグローブをしたまま操作できるという
実用的なデザインは、スワロフスキーの双眼鏡だけだ。
こつた高いレベルの製造工程に従事する同社の人材は
機械式腕時計が組めるくらいの精密作業に長けた職人揃い。
確信犯的に難度の高いモノ作りを行っている。
だからこそ、世界最高の双眼鏡が生まれるのであろう。
双眼鏡としての総合力は他の追随を許さない。
そこが世界一の理由である。
もつひとつ、スワロフスキー所有者だけが知りえる秘密。
それは、肉眼・裸眼で見た色と、レンズを通じた色が
同じであるという点だ。大きく見えるだけではなく、
正確に認識できる、あるいは同じ質感で見えることの
当たり前のように、他の双眼鏡では決して望めない
レンズの向こう側に広がる景色は、
最高の喜びを与えてくれるに違いない。
視覚的にも触覚的にも「最高の名品」の佇まいである。



STYLING

MONO

ドイツやオーストリアは古くから狩猟が盛んな地域だった。自然観察の双眼鏡だけではなく、ハンティング用ライフスコープなどもスワロフスキー・オプティックは製造販売している。



Pocket 8×20B Tyrol (革張りボディ)
レギュラーモデルと同じく
光学設計は16枚のレンズを使った
贅沢な設計。オペラグラスにも。
価格10万5000円



SLC 8×42HD
2010年発売の人気モデル。
低分散ガラスを使った対物レンズで
この価格帯では飛び抜けた機能。
価格23万1000円



EL12×50 SWAROVISION
2011年発売の超最新モデル。
フィールドフラットナーレンズを
採用した新世代の50mm双眼鏡。
価格36万7500円



オーストリア・インスブルック郊外、
アプサム村にその居を構える
スワロフスキー・オプティック社の工場。
アルプスを背にしたチロル地方は
豊かな自然と水に恵まれた土地



SWAROVSKI
OPTIK



1895年、旧チエコスロバキア・ボヘミアからの移民であるダニエル・スワロフスキーは、オーストリアのチロル州ヴァーツェンズでクリスタルガラスの製造会社を設立した。彼自身が、それまで手作業で行っていたクリスタルのカットを、より精密に行える機械を発明してから3年後のことだった。高度な生産技術により作られたスワロフスキーのクリスタルは、着実に市場に受け入れられ、ファッション・アクセサリーのデザインに新しい可能性を切り開いた。同時に、精度の高いクリスタルの技術は、他分野への応用へと広がり、たとえば道路のリフレクターでは交通安全用品に革新的な技術を提供した。

このアプサム村は18世紀後半くらいまで、ヨーロッパで最も探し求められていたバイオリン、名工ヤコブ・スタイナーが誕生した土地でもある。隣町のハル(HALL)はヨーロッパで初めてコインが鑄造された町。モノ作りの職人の育つ土壌があったのかもしれない。

ただ、スワロフスキーがここチロル地方に拠点を構えたのは、大きな理由があった。それは、クリスタルを加工する工場に欠かせない水が、豊富な土地だったのだ。1964年と1976年の2回、冬季オリンピックが開催されたほど雪深いインスブルックの郊外に位置するこの地は、アルプスの清冽な水が絶え間なく湧き出し、潤沢な水を必要とするクリスタルや光学レンズの研磨・洗浄、そして急峻な地形による水力発電からの電力供給には最適な場所である。つまりアルプスの水で磨かれたクリスタルがスワロフスキー製品を支えている、といっても過言ではないほど、同社にとって水は重要な存在なのである。1980年代以降、スワロフスキー・オプティック社では自然環境への配慮からレンズの洗浄方式を変更し、洗浄水の再利用など環境保全とリサイクルへの高い意識を、生産の現場で実践している。水に対する高い意識は、これから同社の基軸のひとつとなっていくことだろう。

スワロフスキー・オプティックのスコープや双眼鏡は、最新の機材と最良の材料、そして最高の技術者たちによって生み出されている。技術革新は日常的に進められ、たとえば同じ機種が1年の内に2度、3度とマイナーチェンジされるようなことも、決して珍しいことではないという。低コスト・高効率といういまのアメリカ的な株主重視のコスト追求経営ではありえない話だ。だがそのスタンスを曲げないことで、最高の評価を得るに至る製品を生み出しているのである。双眼鏡を手にとってみると、その素晴らしい素晴らしい重量バランスの良さに感動するだろう。長時間の使用でも身体への負担を軽減し、レンズを通して再現されるありのままの色は、まるでそこにガラスレンズなど存在しないかのように自然で、目にも優しい。

世界のバードウオッチャーたちの間では鳥の羽の質感、再現力、スワロフスキー製光学機器の評価が圧倒的なのだという。またある建築家は、歴史的建造物の細部をスワロフスキー双眼鏡で観察し、自分の設計による建物の経年変化を、高いところに登って危険を冒すことなく知ることができた。



誰もが口をそろえて言うことは、「もうスワロフスキーでないとダメ」。いつの時代でも、愛用者たちの声は正直である。ちなみに、同社の光学機器は英王室のロイヤルワラントを賜っている。それも女王陛下のワラントだ。スワロフスキーなら当然だろう、と普通に思えるところが、このブランドの凄い所かもしれない。



スワロフスキー・オプティックの創設者ウィルヘルム・スワロフスキーの息子。1935年に自らの手で野鳥観察のための8×30双眼鏡を作り上げた。1949年に本格的な光学機器専門の工場「スワロフスキー・オプティック」をスワロフスキー社と同じくチロル州のアプサムに設立。60年以上にわたり最高級の光学機器を提供し続けている。

STYLING

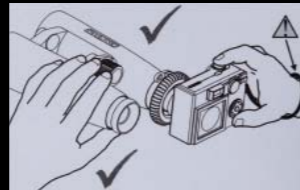
MONO



濡れているのか、乾いているのか？
 レンズを通した像でそれが判るのは
 スワロフスキーだけだといわれている。
 熱帯雨林の研究者が同じ感想を漏らし
 ある建築家は高い部分の塗装の
 くたびれ具合を判断するには
 これでないと言ったという。



機械式時計を組めるくらいの
 レベルの高い職人が揃っている。
 モノ作りを楽しむ社風は創業当時から
 あったそうで、いまではその技術力は
 軍用スペック(ミリタリースペック)を
 遥かに超えるほどだという。
 生産工場の職人というだけではなく
 本社には研究者も多い。
 面白いのは部品に使われるネジなども
 すべて自社生産のオリジナル品。
 ということは当然、それらに適合する
 工具類もオリジナルということになる。
 だが、部品や工具類の持ち出しは
 禁止されており、海外のプラントにも
 置かれていない。修理はすべてチロルの
 この工場内で行われている。



←デジタルカメラなどを
 マウントして撮影が楽しめる
 スナップショットアダプターは付属品。
 貴重な生き物や植物、風景
 などを記録する楽しみもある。



ングが施されている。こうした
 圧倒的な技術力と職人たちによ
 る完璧な製造力が世界最高の逸
 品を生み出しているわけだ。
 と、ここで「ピノキユア」とい
 は遠くを見ることばかりに気
 取られがちだが、実は同機の最
 短合焦距離1.5mは世界最小。
 足元の植物や昆虫などの観察も
 可能にしている。近くであつて
 も遠くであっても、スワロフス
 キーのレンズを通して見る景色
 は、見えないものを見る楽し
 みや、見落としていたものを発見
 する喜びに溢れている。品質は
 あってもコストの概念は無い、
 と言いつけるブランドだからこそ
 極上の製品を通して最高の愉
 しみを与えてくれるのだらう。

ここでは「スワロフスキー・
 オプティック」の中でも高い完
 成度を誇るモデル「EL 8.5×
 42 SV」を中心に、その優れた製
 品作りについて解説してみよう。
 まず型番の後に付く「SV」とい
 う文字は、SWAROVSKI
 ONの略。これは同社の「ピ
 ノキユア」(双眼鏡)の高級機に
 採用されているスワロビジョ
 ン・テクノロジを有するモデ
 ルにのみ冠されている。人気モ
 デルだったEL 42を昨年、10年
 ぶりにフルモデルチェンジした
 のがこの「EL 8.5×42」(倍
 率8.5倍と「EL 10×42」(倍
 率10倍)。スワロビジョン・テ
 クノロジとはフィールドフラッ
 トナールレンズを使った新設計の
 光学系、旧型以上に分解能が高
 くて明るい像を見せるさらに進
 化したSWAROCORRECTING
 に代表される新技術のこと。
 新設計の2枚構成フィールド
 フラットナールレンズは、視野を
 平坦にして視野周辺部の像を補
 正し、高いコントラストを確保
 してくれる。対物レンズに採用
 された素材はフローライト系H
 Dガラス。自然の色を忠実に再
 現し、色収差を限界まで補正す
 る。またハイ・アイレリーフで
 観察時の疲れを大幅に軽減。メ
 ガネ使用時の視野のエッジまで
 見やすい設計だ。独自のレンズ・
 コーティングは光学性能をアッ
 プ。表面のレンズには汚れや水
 滴を付きにくくするSWARO
 CLEANという撥水コーティ

スワロフスキー・オプティック
 製品についてのさらに詳しい情報は
<http://www.swaro-optik.jp/>
 ©スワロフスキー・オプティック銀座
 ☎03-6252-3097



スワロフスキー・オプティックのトレードマークはこのイーグルのモチーフ。バードウォッチングをする人にとっては、この鳥の種類が気になるころだが、実際には猛禽類をモチーフにしたデザイン上のマークであり、特定の鳥ではないらしい。ラップ・アラウンド・グリップによってハンドリングのしやすさを格段に向上し、ピント調節のためのすべてのメカがブリッジの部分に集約されている。実際に触るとよく判るが、ピント合わせのフィーリングや微妙な調整、実使用時のスムーズな使用感など、とにかく触覚に訴える操作性の良さに、ほれぼれするほど感動する。



世界中のユーザーから絶大な信頼を寄せられるスワロフスキー・オプティックの修理メンテナンス。同社の考え方は「修理をすることで職人のスキルが上がるのだから、そこで儲けようという発想はない」というもの。だから他のブランドと比較しても修理代は安く早い。製品の修理はすべてチロルの工場で行われる。微妙なタッチやコントロールなど、生命線のクオリティは自分たちが守るという考えだ。

STYLING

MONO

光学機器だけではなくスワロフスキー本体の最新アイテムも話題作が多い。まずは初のクロノグラフウォッチが新作コレクションに登場。今年のバーゼルで初公開されたばかり。ジュエリーブランドらしい品格のあるスタイリングだ。また、ファセット・セラミック製のOCTEA SPORTの注目作。クリスタル加工で培われた技術が、セラミック加工にも充分に活かされた逸品。ウォッチコレクションにおける12時の位置のスワン・ロゴが、魅力的なデザインとなっている。

アクセサリー系では何といっても大ヒット映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」とのコラボレーションに注目したい。ジャック・スパロウや女海賊アンジェリカたちが身に付けているジュエリーのレプリカなど、ファンには見逃せないアイテムが多数発表される。



スワロフスキーのウォッチ&ジュエリー、話題沸騰の最新作。
 上右: OCTEA CHRONO-PURPLE
 価格14万8050円
 上左: OCTEA SPORT ULTRA WHITE
 価格12万9150円
 下右: 今年5月公開の映画
 パイレーツ・オブ・カリビアンとの
 コラボレーション・ジュエリー
 HIGH SEA: NECKLACE COMPASS
 価格3万6225円
 下左: 右と同じくコラボ・ジュエリー。
 こちらはベネロ・クルス演じる
 アンジェリカが着用品のレプリカ。
 ANGELICA: PENDANT CROSS
 価格3万4650円



©スワロフスキー・ジャパン
 (カスタマー・リレーションズ)
 ☎0120-10-8700
 www.swarovski.co.jp